

研
究

統制經濟と國際的景氣關聯

高橋次郎

緒言

第一章 國際的景氣關聯

第一節 景氣の國際的傳播

第二節 世界的景氣系列と地方的景氣系列

第三節 景氣の國際的分裂

第二章 統制經濟と國際的景氣關聯

第一節 對内經濟の統制

A 農業統制

B 産業及び消費統制

統制經濟と國際的景氣關聯 (高橋)

C 價格及び投資統制

第二節 對外經濟の統制

A 貿易統制

B 本位制統制

C 信用統制

結 言

緒 言

一九三三年以來ドイツ民族が建設したような一民族の政治的・文化的・經濟的及び社會的生活秩序及び精神生活を僅々數年にして深く變革し新しく構成し直したと云ふ様な事は、人類の歴史に於いて稀に見ることに屬する。斯くの如く謂はれる所以のものは、實にドイツがその深刻なる世界恐慌の眞只中からよく脱出して所謂『國家景氣』*Staatskonjunktur*を創り出し、それを通して増大せられた老成なる軍備を擁して歐羅巴に巨歩を運びつゝある事に基く。

ナチスの劃期的變革によつて齎らされた『國家景氣』は、勞働振興政策・軍備擴張政策・原料自給政策などを根幹とする國家註文・國家金融及び國民大衆の犠牲的支援によつて煽揚せられて居る擬似景氣である。これは、全くナチスの經濟政策によつて創り出されて居るものである。この『國家景氣』を對象とする分析は、

之を私は最近他のところで行つた¹⁾。そこで、次に、視角を大廻轉させて、ナチスの統制經濟と他の諸國の國民經濟との間に於ける景氣變動の國際的關聯性を觀る。即ち、ナチスの統制の下に在るドイツの新秩序は、従前の如き『國際的景氣傳播』に於いて如何なる關係を獲得するものであるか？ それは尙ほ如何なる程度に於いて妥當するものであるか？ 今これが問題となる。

私は、最初ベルリン景氣研究所に於いて、統制經濟一般の國際的景氣關聯性を研究しようと考えた。しかし、今日その建設途上にある所謂『全體主義國家群』の統制經濟は各々其の形態や深度に於いて相異り、抽象的分析にいさゝか不都合を感じさせる。それ故に、その中から典型的なものとしてドイツの統制經濟をとり出し、大體そこで行はれて居る統制的措置を對象として研究を進める事にした。その一應の報告がこれである。我が國に於ける統制經濟も幾多の範を盟邦ドイツに採つて居る今日、この企ては以つて他山の石となし、國際的景氣關聯の中に於いて統制經濟が如何なる關係を持つかを識らしむるに足るであらう。

第一章 國際的景氣關聯

第一節 景氣の國際的傳播

資本主義的工業生産と共に生れ出た經濟生活の波狀運動は、普通之を『景氣』Konjunktur と呼び慣して居

1) 『研究年報、經濟學』(東北帝國大學經濟學會)、10號(1939)

る。資本主義的再生産過程の中に波状運動が起るのは、景氣が循環する事を意味する。だが、「景氣循環は、單に類似せるもの、再現に過ぎず、同一状態の永久的反覆ではない。」¹⁾ 景氣の循環的變動に於いて、その過程が次第に國際性を帯びる様になり、そこに「國際的景氣關聯」が発生する様になつた。即ち、「世界經濟の完成と共に、國民的景氣の並存性が統一的世界景氣に成生する。」²⁾ とは云へ、仔細に觀察するならば、個々の國に於ける景氣變動の経過は多様性を示し、必ずしも同一の時期に好況期の最高點や恐慌の最低點に到達して居ると云へないものもあり、又その集約性にも相異なるものゝ存する事が判る。けれども、特に前世紀の中頃から、各國の景氣の動きに同じ様な傾向のある事が認められる様になつた。そして、景氣變動の國際化は、景氣の理論的研究に於いて常に問題とせられ、景氣の國際的關聯性は景氣論及び世界經濟的研究の主要なる論題となるに至つた。

そこで、景氣の國際的關聯性の分析は、「國際的景氣變動要因」internationale Konjunkturfaktoren と云ふ様なものが存するかどうかと云ふ問題の提起をもつて開始せられなければならない。そこで、全世界經濟の中に、統一的な・並行的な景氣變動を惹き起す様な有力な原因を見出す事が出来るであらうか、と問ふ。

之に對して、太陽黒點説³⁾で有名なジェボンス (W. Stanley Jevons) や降雨量説⁴⁾のムーア (H. Ludwell Moore) の如き外生的恐慌原因に據る學者は、收穫の多寡を通じて、世界景氣の並行性を主張する。然し乍ら、それが誤りである事は統計的經驗的研究によつて容易に示される。

- 1) Ernst Wagemann, Wirtschaftspolitische Strategie. Hamburg. 1937. S. 68.
- 2) Dr. Arbert v. Mühlentfels, Internationale Konjunkturzusammenhänge. (Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik. 130. Band, 6. Heft) S. 801.
- 3) W. S. Jevons, Investigations in Currency and Finance. 1884. 1ed. (1909. 2ed.)
- 4) Henry L. Moore, Economic Cycles, their Law and Cause. 1914.
do., The origin of the eight-year generating cycle. (The Quarterly Journal of Economics. 1922) p. 1. ff.

又、技術の更新が國際的景氣變動要因であると云ふ説もある。しかし、經驗は、技術の更新が各國で同時に行はれる譯のものではなく、又それが各國の景氣變動の態様に對して各々異つた作用を興へるものである事を、明かにする。

斯様にして觀ると、國際的景氣連衡が國際的要因によつて惹き起される事は、否定せられなければならぬ。そして、それは、唯國民經濟的な景氣變動の經過が大なる領域にまで國際的に傳播するに過ぎないものである、と云はざるを得なくなる。此の景氣の國際的傳播は、次の二つの途を辿る。

一、世界交易經濟の内部に於ける經濟的傳播の途。

二、社會心理的、特に群集心理的傳播の途。

先づ第一に問題となるのは、第一の經濟的傳播の途である。これは、一つの國民經濟の内部に於ける景氣の國內的傳播と云ふ一般的過程の一つの特別な現はれであるに過ぎない。此の場合、商品・勞働力及び資本が自由に通ずるならば、その國際的な景氣關聯性は強く、景氣の國際的傳播力は大である。極限的な場合を想定して、商品の貿易にも、資本の國際的移動にも、また勞働力の國際的移動にも、何等の障害が存しないとするならば、そこに行はれる世界交易經濟は一つの統一的な世界統體經濟にまで高められ得る。それは、世界全體が恰も一國民經濟をなすかの如く機能するものであり得る。しかし、此の様な事は、未だ現實に行はれた事がない。

5) W. C. Mitchell, Business Cycles, p. 448.

6) B. Kuske. Die Bedeutung Europas für die Entwicklung der Weltwirtschaft, Köln, 1924, S. 53. und passim.

此の經濟的傳播には、水平的傳播と垂直的傳播とがある、とフォン・ミューレンフェルス (von Mühlenfels) は曰ふ。

垂直的傳播に於ては、原料品から完成品に、供給から需要に、又はその反對に、と云ふ様な方向に景氣が實際的に傳播する。これは、主として、個々の生産段階の關聯によつて決められる。

水平的傳播に於ては、個々の經濟が同一市場(例へば供給の側)で互ひに競争する事を通じて國際的景氣状態の部分的變動が惹き起される事になる。

そして、垂直的傳播に對する最も主要なる故障は一方の獨占的地位であり、水平的傳播のそれは市場領域の狭いと云ふ事である。

ところで、一國民經濟の經濟的活動の範圍が他國の景氣との關聯に於いて變動したにしても、若しもそれが單に輸出又は輸入量の變動にのみ基くものであるならば、それは未だ景氣の「感受」を完了したものと云へない。國內的供給、特に國內的需要に影響する事を以つて、一國から他國への景氣變動の感受は完了する事となるのである。⁷⁾併し乍ら、この事は、市場均衡の單純なる過程を通したゞけでは満足に説明する事は出来ない。別の要素をそれに付け加へて見なければならぬ。つまり、此處に特に思惑的要素が登場して來る。そして、此の思惑的な心理的要素は、企業家精神と云ふ様なものと結びついて世界景氣の運動に影響を與へる事になるのである。

7) v. Mühlenfels, op. cit., S. 807—809.

8) Ebenda, S. 814.

第二節 世界的景氣系列と地方的景氣系列

景氣變動の國際的關聯の全階梯をその波長に従つて國際的に比較すると、そこに吾々は多かれ少かれ國際的關聯の密接な景氣系列と、殆んど斯かる關聯のない景氣系列とを見出す。

前者は、明白な並行運動、繼起運動または對立運動の形態をとつて、國民經濟の全領域のみならず世界經濟にまで傳播するものであるから、吾々は之を『世界的景氣系列』『Mondialreihen』又は『ドミナンテン』『Dominanten』と呼ぶ。此の系列に屬するものは、短期金融市場の利率、一定の原料品及び半製品の價格、大市場に於ける取引物件の價格變動などであると、ワーゲマン博士は曰ふ¹⁾。これらのものゝ國際的な密接な關聯は、國際的交通及び通信が容易になつた事の結果として發生したものである。従つて、若しも斯かる國際的交易が阻害せられるならば、それに對應して、これらのものはドミナンテン（屬和絃）たるの性質を失ふに至る。之に反して國際的交易關係が緊密であればある程、世界的景氣系列は絶えず多様な需要及び供給に於ける變動の影響をうけ、それがために容易に且つ活潑に反應するのである。

後者、即ち多かれ少かれその立場^{リツテ}（Standort）に拘束されて居る經濟要素に關係する所の『地方的景氣系列』『Regionalreihen』は、前述の世界的景氣系列とはその性質を異にする。これに屬するものは、同じくワーゲマン博士に據ると²⁾、家賃・俸給及び賃銀等である。その他、小賣價格も之に屬する。何となれば、それは著しく地方

1) Ernst Wagemann, Struktur und Rhythmus der Weltwirtschaft. S. 66.

2) Ebenda, S. 66.

的制約を蒙るものであるから。小賣商の経費の中には固定費として家賃・給料等の地方的景氣系列を含み、又その需要の側には地方的所得状態が作用するのである。

景氣變動の諸要素の反應性 (Reagibilität) と順應性 (Anpassungsfähigkeit) とは主として場所的制約の程度に依存するものである。此の事は、インフレーション時の貨幣價值の下落に際して、各箇の變動系列が外國爲替相場に従つて變動する時の速度と強度とを觀察すると、判然と認識する事が出来る。これと同様のことは、景氣變動の『傳播速力』 Fortpflanzungsgeschwindigkeit に於いても觀られる。特に多くの原料品價格の如き世界的景氣系列は、小賣物價及び賃銀の如き地方的景氣系列より遙かに急激に反應するのは、明かな事である。

第三節 景氣の國際的分裂

前述せるが如く、諸國民經濟が國際的市場交通によつて結びつけられると、そこに景氣變動の國際的順應性が現はれて景氣の並行運動を見るのみならず、又世界經濟に於ける景氣變動の反應性も現はれて世界景氣が分裂運動を起すに至る。此の景氣分裂の運動に影響するものとして、特に次の二つの要素を觀察の中に入れておかなければならない。即ち、各國民經濟の構造の差異と各國の經濟政策。

同一構造をもつ二國の間に於いては國際的景氣傳播の途が平坦であるか如くに考へられるけれども、それは間違ひである。國際景氣の水平的傳播は、一般に垂直的傳播よりもより多くの障害に遭遇するものである。此

3) Ebenda, S. 67.

の場合には、従つて、當該兩國が參加するところの國際的市場領域の數が如何に大であるかを検討しなければならぬ。若しそれが非常に大である場合には、景氣の波及は勿論行はれ得るものである。

構造的に補足し合ふ二國、特にその間に生産に就いて分業の行はれてゐる二國の國際的景氣關聯はヨリ惠まれたものである。勿論、此の様な垂直的景氣傳播の場合に於いても、それが第三の國際的市場を通して垂直に結合される様な場合もあり得る。

完全に構造の異なるものは、しかし前二者とは異り、景氣傳播のための地盤を失ふ¹⁾。

次に、經濟政策と景氣傳播の關係に移る。國民經濟的景氣と世界經濟的景氣との本質的な差異は、個々の國の經濟生活に對する經濟政策の影響の不統一性の中に見出される。國家の對外經濟的方策には種々あるが、その中で景氣の國際的關聯を妨害し、それを分裂に導く様な措置、即ち國際經濟的取引を阻害する様な經濟政策が今こゝで問題となる譯である。それには、次の三種の方法がある。

- (A) 貿易政策
- (B) 本位制政策
- (C) 信用政策

國際經濟關係は世界大戰後一般に著しく害はれ、國境は次第に商品の國際的移動のための障害となつた。現代の生産力が常に各國家の國境を超えて發展しようとするのに對して、現下の貿易政策は國民經濟の世界經濟

1) von Mühlentfels, op. cit., S. 816—817.

的關係を常に強く強く束縛し、それは商品の移動と峻烈なる對立を演じて居る。²⁾ 若しも或る國が封鎖政策に導く様な關稅政策を採用するならば、此の商品交易と云ふ方面に於ける景氣の國際的關聯は切斷せられる事になる。

世界の經濟政策的協調の中で、吾々の知つて居る最も大規模なものは、貨幣本位制度の關聯である。蓋し、共通の金本位制は絶えず動搖する支拂勘定のバランスの端額決濟を極めて容易にする事が出来るからである。國際的收支の決濟は金の移動によつて行はれる。それは、多數の導管組織と似て居る。中央銀行によつて國際的に綿密に行はれた信用政策特に割引政策は此の精緻なる自動機構を支援するものであるから、それは事實に於いて金本位制と共に『政治經濟學の國際的體系』の第一の手かがりを意味するのである。³⁾

戰前に於いては、國際的資本移動の差額決算は、單に本位制度及び發券銀行制度によつて入念に規整せられて居たのみならず、又信用錯綜の全基本核心は當時支配的であつた收益經濟の自動機構によつて調和的に形成せられて居たのである。此の場合、機械的な決濟は最もよく取引所正規の短期信用の領域に於いて高度に發達せる爲替裁定を保證した。『貨幣市場の連帶性』は必ずしも同じ程度で資本市場の協働に對應しはしなかつた。しかし、今日では、その關聯は更に著しく弛緩を來して居る。諸國の貨幣市場の運動は極めて頻繁に相互に峻嚴なる矛盾に陥つて居る。資本市場に於いても、吾々は異常に著しい利子率の相違を認める。それがために國際的資本移動は著しく妨げられるに至つて居る。⁴⁾

2) E. Wagemann, op. cit., S. 345—6.

3) Ebenda, S. 348.

4) Ebenda, S. 349—350.

國際資本の移動が資本輸入國に順調なる景氣の發展を招來することに就いては何等の證明も必要がない程である。必要なる資本を外國に仰いで行はれる物質的生産設備の擴張は、各種の財の需要の高まつた事を意味し、その結果利得が増大する。しかし、資本輸入の停止は、獨り景氣上昇の停止を意味するのみならず、時には景氣の後退をも意味するに至る⁵⁾。

之に對立して、國際資本移動と結合して資本輸出に現はれる景氣變動がある。資本輸出が自國の貯蓄量増大の結果として發生する場合には、従つて利子の喰違ひが供給者側から起る場合には、そこに何等の問題もない。しかし、資本輸出の刺戟が外國側即ち需者側からなされる時には、多くの場合資本輸出の經濟状態に悪い影響を及ぼす。一九三一年の資本回収によつて發生した國際的金融恐慌に際して現はれた資本逃避は、特に中歐の債務國からその經營資本の著しい部分を奪ひ去つてしまつた⁶⁾。

斯様にして、景氣の國際的運動には、單に並行運動があるのみならず、尙ほその他にそれと相並んで分裂運動のあることが明かになつた。今日では殆んど全く景氣政策的性格を備えて居る經濟政策が此の様な分裂運動を誘發させる力を持つて居るのである。

5) Ragnar Nurkse, Internationale Kapitalbewegung. Wien. 1935. S. 188.

6) Machlup, Theorie der Kapitalflucht. (Weltwirtschaftliches Archiv. Okt., 1932)

第二章 統制經濟と國際的景氣關聯

第二節 對內經濟の統制

(A) 農業統制

前世紀の末から交通機關の完成及び海外農産物の廉價によつて、ドイツの農業は海外諸國に對して大なる依存性をもつ様になつた。十九世紀の七十年代に始まり、十九世紀末まで擴つた不況期には、有利なる條件の下にある海外の農業經濟領域の價格壓迫鬭争と密接な關聯に立つ事をドイツの農業は餘儀なくせられた。最近に於けるドイツの農業恐慌も亦、その原因を海外に於ける農産物の過剰生産の中に持つて居た。ドイツに於ける工業的景氣が未だ著しい景氣上昇の線を辿つて居た時、農産物の世界的價格の低落を通じて、その農業は恐慌へと崩壊して行つてしまつた。そして、一九二九年に於ける工業的景氣の受難の後には、工業恐慌と農業恐慌とが纏れ合つて、世界經濟の破壊及びそれ續く不景氣の性質を非常に著しく尖鋭化してしまつた。¹⁾

斯くの如き國際的景氣關聯の中に織り込まれて居たドイツの農業は、『民族維持のための農民維持』と云ふナチスの綱要に基いて徹底的な統制をうけた。ドイツ國民の四分の一の生活の場としての農業は、今まで殆んど知る人もなかつたルーランド (Ruhland)²⁾ と云ふドイツの國民經濟學者が一九〇八年に公にした學說に従つて、

1) Vgl. Siegfried von Wiacy-Wantrup, Agrarkrisen und Stockungsspannen. Berlin. 1936.

League of Nations, The Agricultural Crisis.

2) G. Ruhland, System der politischen Ökonomie. 3Bände. 1908. (Unveränderter Neudruck mit einer Einleitung von R. W. Darré. 1933)

次第に統制を展開して行つた。ドイツの統制経済の中で、農業に對する措置は全く特殊な役割を演じて居る。國家の干渉がこれ程大規模に行はれて居る經濟領域は他にない。一九三三年九月十三日、全農業部門は強制的にカルテル即ち『國立食糧團』Reichsnährstand に加入させしめた。これは、中央官廳たる食糧省の監督の下に置かれてゐる公法的團體である。

農業物の價格統制の中で最も壓倒的な地位を占めて居るものは『固定價格』Festpreise である³⁾。また、農業物全般に對して引渡義務が課されて居る。農産物の輸入に就いては、その數量・時期・原産地に就いて國家的統制が行はれて居る。斯様にして、農業生産者の賣渡す價格は、一九三三年の初から一九三七年の一月までの間に三五・七%の上昇を示し、『農産物の價格缺差』Agrarschere は消失したと云はれる。そして、食糧品の輸入は一九二七年以來減退して、一九三六年までの間に二六%から一八%にまで低落した⁴⁾。

その生活及び利得條件を安定にした農業がドイツの全經濟的運行にとつて一つの保證を與へるものである事は、明白である。先進的工業國に於いてさへ、農業はその人口の著しい部分を占め且つ全經濟的活動に關與する事が多いのであるから、農業が購買力を持つ事は工業的景氣變動に對して大なる影響を及ぼすものである。尙ほ、此の他に大規模なる信用借による従前の重荷、過高の利子率及び租稅公課は經濟的に負擔し得る限界にまで引下げられ、その限界を超えない様な策が豫め講ぜられた。

國立食糧團の行ふ供給統制と並行して行はれて居るところの、需要に適應する様な生産の操縦は、誤れる投

3) H. Priester, Das deutsche Wirtschaftswunder. Amsterdam. 1936. S. 91.
4) E. Wagemann, Wirtschaftspolitische Strategie. 1937. S. 262—263.

資を避け、取得せられた所得標準を保持し、農業生産性を高めるのに適して居る。

農業に於ける生産・販賣及び利得關係の斯様な絶對的安定性は、同時に、全經濟生活の安定化の要素として評價せらる可き事は、疑のない所である。斯様にして、ムースは、「一九三三年以來採られた政策的措置によつて、ドイツの農業は全く自由なる交易・及び市場經濟から離脱してしまつた。世界市場價格、及び國內市場に對する計算し得ない需給作用は、その利得形成及び價格形成に對しては、排除せられてしまつた」と説く。⁵⁾

(B) 産業及び消費統制

ナチスの産業統制は、勿論、「指導者原理」Führerprinzip に基いて行はれて居る。それは「經營協同體」の中に具現せられる。又、産業全體は専門別團體及び地域別團體を通して統制せられる。

産業的活動に於いては、一方私的營利萬能の自由主義的經濟は排撃せられ、所謂「公益優先」と國家的統制とが強調されるが、他方私有財産と利潤とは否定せられる事がない。私的企業は尊重せられ、個人の創意が經濟的活動を動かす源泉とせられて居る。私的企業の活動を國策線に副はせる様に、統制政策が行はれて居る。従つて、一個人の創意の培養、及びそれを他の意義即ち全體に對する奉仕に育成する事は、他の方面から經濟運行的計劃性を希望しなければならぬ。斯かる個人の創意は、國家によつて窮屈に描き出された「計劃經濟」の硬直なる生産の數字よりも遙かによく均衡のとれた經濟運行を誘致するであらう。一國民經濟に於ける經濟過程の均衡は、實際、計劃數字の嚴守又は違反によつてよりも、寧ろヨリ多く個人の創意を國家が操縱する事

5) Karl Muhs, Deutschland und die nächste Weltwirtschaftskrise. 1938. S. 57.

によつて成生するものである¹⁾とゲルナーが述べて居る様に、私的企業の活動の餘地はドイツの産業に於いても充分に與へられて居る譯である。さればと云つて、私的企業の自由なる活動は容認せられるところでない。彼等は飽くまで國家の統制に服しなければならぬ。『國家景氣』と云ふ言葉によつて良く表現せられて居る様に、今日のドイツの生産の方向、従つて又投資の方向の大部分は、國家の創意によつて決定せられて居る。又、價格と云ふ問題に就いても統制をうけて居る。市場統制的活動、即ち價格、生産その他取引上の條件に關しては、前述の各種の經濟的自治團體が直接に關與するものではなく、從來通りカルテルに委されて居る。そして、此の點に於いては、カルテルが價格形成委員の取締をうける事になつて居る。だが、經濟團體は、カルテルの市場的活動が私的利益の追求に墮せずして常に公益的考慮に基いて行はれる様に監督する立場にある。斯様に於いて、産業統制に於ける主要なる問題は、價格統制及び投資統制となる。これと景氣の國際的關聯との問題は、別項(C)に於いて問題とするであらう。

ところで、統制經濟はその全體化にまで進展して行かなければならない。故に、生産販賣のみならず消費をも亦統制する事が必要である。これは生産や販賣の統制よりも難しい。國家は生産條件を規律や命令で改正する事は出来るけれども、廣汎なる國民大衆の永年の習慣を一片の法令によつて一朝にして改めさせることは伸々難しい。消費者は元來極端な保守主義者である。けれども、ドイツは、國家景氣招來のために其の需要を轉向させる必要を認め、又外國爲替節約のために外國品に代るに國産品又は代用品を以つてするの必要に迫られ

1) Alexander Görner, Vom Klassenstaat Zur Volksgemeinschaft. Berlin. 1938. S. 96.

たので、宣傳及び立法手段に訴えていよいよ消費統制に乗り出した。

“Deutsche kauft deutsche Waren” (ドイツ人よ、ドイツ品を買へ)と云ふ標語^{パポルレ}は、消費統制を大いに容易ならしめた。國民は間もなく外國の自動車を買つたり、外國船に乗つたりする事を非愛國的な違反行爲なりと感ずる様になつた。家庭の主婦には、ドイツのバター、ドイツの野菜を買へと説教し、多數のナチス黨員はこれを監督した。

此の様な啓蒙運動及び對個人強制による消費統制が多大の効果を收めた事は云ふまでもないが、それだけでは國民の消費習慣を改め、國家の要求に適應せしむる事が不可能であつた。そこで、法令によつて、指定の外國原料の使用を禁止し、又は國內代用品使用の義務を命じた。かくて、非鐵金屬を軍需以外に使用することが禁ぜられ、人工纖維の混入割合が定められた。

斯様に消費の方向を外國商品又は外國原料による商品から外らす事は、それだけ景氣の國際的傳播性からの離脱を意味する事になるのは云ふまでもない事である。

(C) 價格及び投資統制

價格が全經濟機構の中に於いて重要な地位を占めて居ることは、統制經濟に於いても變りがない。價格に對する統制は、價格監視時代から價格形成時代に入つた。ドイツに於いては價格上昇を抑止せんとする措置が大體に於いて成功したと云はれて居る。此の事實を景氣政策的觀點から觀察する。

2) Priestler, op. cit., S. 97—98.

自由なる交易經濟的景氣運動の中に於いては、價格上昇は景氣上昇及び好景氣の明かな標識であり、又斯かる價格上昇の最も重要な・積極的な要素である事を想ひ起す事が出来るであらう。その關聯は次の如くである。即ち、景氣が上昇の徴候を示して居るが故に價格が上昇するのみでなく、反對に又價格が常にヨリ速かに上昇するが故に景氣は常にヨリ速かに前進する。これは、多くの經濟的過程に典型的なる原因結果の相互的協働及び交互作用の好例である。ところで、價格の安定化を通じて、斯様な景氣の上昇的・過剩緊張の傾向をば前以つて壓迫し、景氣上昇運動に對して緩かなテムボを強ひる事を考へることが出来るであらう。だが、價格の安定化（此處では、價格の全體的平均状態を意味する。だから、一般指數は僅かばかりの變動をなすに過ぎず、個々の價格群の特別な運動例へば農産物のその如きを含まない。）は、就中、自動的に企業家の投資慾を妨げる事になる。企業家は、價格上昇が期待し得られる様な場合に始めてその設備及び生産を擴張せんとするものである。従つて、心理的要素は大なる意義をもつ。上昇せる價格は利得の増大を齎らす。それを、企業家は投資に振り向ける財源とする。之に反して、價格が安定して居ると、景氣樂觀性は放縱に働かず、利得のマーデンは狭少となり、しかも此の利得は唯販賣市場の擴大によつてのみ可能とせられる事になるのである。斯様にして、「一般的價格統制は、景氣安定化のための價值多き手段を提供する。それは、更に、國內市場に於ける景氣變動の運行を自立化して、それを外國市場から離脱する事を可能ならしめる。」¹⁾價格の「滲透法則」*Defusionsgesetz* を想ひ出すと、自由なる交易經濟に於いては、如何なる價格變動も國民經濟的限界内に

1) Karl Muhs, op. cit., S. 60.

のみ止つては居ない、それは他の世界經濟領域にまで波及して國際的景氣變動の一致性を誘導する。然るに、物價統制によつて、國際的傳播の網は絶たれ、價格の統制せられたる國民經濟は他國と絶縁して独自の途を辿る事になるのである。外國取引商品に對して採られる特別の措置を通じて世界景氣との關聯は、物價統制下のドイツに於いても幾分殘されては居るが、しかし、これはドイツの國內物價に大影響を及ぼす程の力をもつものではない。

一九三三年以來の世界景氣の上昇は、多少の差こそあれ、汎ゆる國に於いて價格上昇によつて導かれたのである。之に反して、ドイツの物價指數は、農産物價格以外は安定を示して居る。一九二八年を一〇〇とする指數は、一九三三年から一九三七年秋までに七〇・二から七五・九に上昇して居る。これに類似した小變動は塊太利・ポーランド・チエツコスロヴァキア等に於いて見られる。その他の諸國に於いては價格が激しく上昇して居る。即ち、白耳義は五六・一から八一・九へ、イギリスは七五・〇から九四・七へ、アメリカ合衆國は七七・五から九〇・〇へ、日本は七八・五から一〇二・八へと上昇してゐる。此の様に諸國に於ける同様な並行せる價格運動の傾向は、國際的景氣關聯の存在を表現するものである。之に反して、獨逸はその独自の決定力による自らの途を獨り辿るものと云へるであらう。そこには、殆んど他の諸國との景氣關聯の跡を見出すことが出来ない。これは、景氣上昇の場合に就いての觀察であるが、逆に「世界景氣」が崩壊する場合を考へて見ても、ドイツの價格曲線の自立化を説く事が出来るのは、自明の理である。何となれば、ドイツの價格を統制してそ

2) Ebenda, S. 60—61.

れに門をかけると云ふ事は、時間的に制限せられて居るものでもなければ、又景氣状態に條件付けられて居るものでもなく、それは實に自立的なドイツの經濟政策及び經濟秩序の原理的な・永久的な表現であるから。

扱て、如何に價格統制が景氣統制のために重要であるにしても、それは尙ほ、汎ゆる過度の緊張の主要なるものをばその根源に於いて握むためには、投資に直接及ぶ措置を必要とする³⁾。投資の觀察と云ふ事は、價格曲線のそれとは異り、國家の經濟的支配の配置を正しくするための信賴するに足る把手を提供するものである。

この事は、既に古くから認められては居たが、何處でも投資統制に伸々乗り出さなかつた。と云ふのは、一方それによつて企業家の決定の自由を侵かす事を憚かると共に、他方それを實現するに値する政治的權力を缺いて居たからである。ところが、今日では獨逸・伊太利及び日本等の國防經濟體制をとる所謂全體主義國家群に於いて之を見る⁴⁾。

投資操縱の政策は、信用政策と云ふ手段によつて制限せられ得るであらう。しかし、信用政策はたゞ一般的に投資的活動に影響を及ぼし得るに過ぎない。投資的活動を個々に統制するためには、ドイツの四ヶ年計劃に於けるが如く廣汎なる生産プログラムを要する。斯かる投資計劃は、出来るだけ企業家の創意に奉仕し、それをば一方汎ゆる種類の補助（價格統制、租稅輕減、資本造出、販路保證等）によつて操縱せんとし、又他方禁止及び困難化によつて操縱せんとする。これは、大なる投資のために私經濟的考慮を超えるものとなる事がある。今日では、實際、國家景氣のために、國家自身の行ふ老大なる投資的活動が前線に出て來て居るのを看過

3) Ebenda, S. 62.

4) E. Wagemann, op. cit., 5. 245—246.

する事が出来ない⁵⁾。

斯様にして、價格調節及び投資管理は、從來の自由交易的經濟機構をドイツから取り上げた槓杆である。一九三三年以來採られた汎ゆる統制政策の中で、これが最もよくドイツの經濟的構造の變動を示すものである。斯くて、ドイツの國民經濟は他の國民經濟及びその景氣變動から著しく離脱してしまつたのである。生産過程及び需要充足過程の偉大なる統制者としての自由なる價格形成は除外されてしまつた。勿論、此の場合に於いても尙ほ、自己責任をもつて企業家が國民經濟の勞働力及び資本の充用に對して力をもつて居る事は、既に述べた通りである。

第二節 對外經濟の統制

(A) 貿易統制

對内的經濟の自立化の傾向と手をたづさへて、ドイツはその對外的經濟の自立化を圖つた。前世紀に於けるドイツの工業化及び人口増加は、世界市場との密接なる結合を必要とした。外國貿易は、一八八〇年に五七億マルクであつたが、一九一三年には二〇八億マルク、一九二八年には下落せる貨幣價值で計算してさへ二六二億マルクとなつて居る。絶えざる商品の流が國境を超えて、世界經濟の各方面に交易せられたのである。各國の國民經濟は只管にその生産能力及び勞働力を利用して、その製品を外國市場に販賣する事によつて、利潤の獲得に努めた。ドイツの平均輸出割合は數年前までは三五%であり、大多數の工業部門ではその生産物の半分

ドイツの外國貿易及びその世界貿易に對する参加度

年 度	獨逸の外國貿易			世界貿易		ドイツの世界貿易 に對する参加度(%)	
	輸 入	輸 出	殘 高	輸 入	輸 出	輸 入	輸 出
1913	10,770	10,097	- 673	83	77	12.9	13.1
1925	12,362	9,290	- 3,072	138	130	9.0	7.1
1926	10,002	10,415	+ 413	134	124	7.5	8.4
1927	14,228	10,801	- 3,427	141	130	10.1	8.3
1928	14,001	12,276	- 1,725	144	135	9.7	9.1
1929	13,447	13,483	+ 36	148	136	9.1	9.9
1930	10,393	12,036	+ 1,643	120	109	8.7	11.1
1931	6,727	9,599	+ 2,872	87	77	7.8	12.4
1932	4,667	5,739	+ 1,072	58	52	8.1	11.0
1933	4,204	4,871	+ 667	52	48	8.1	10.2
1934	4,451	4,167	- 284	50	46	8.9	9.0
1935	4,159	4,270	+ 111	50	47	8.2	9.2
1936	4,218	4,768	+ 550	54	51	7.8	9.4
1937	5,468	5,911	+ 443	69	62	7.9	9.5

(單位、百萬マルク) (單位、十億マルク) (百分比)

統制經濟と國際的景氣關聯 (高橋)

を輸出に向けて居た。それと共に、ドイツはその工業のための原料の大半を外國に求めて居た。また、食糧も輸入しなければならぬ状態に在つた。従つて、ドイツの經濟は、その礎石の一部を外國の土地の上に建てた建築物に比すべきものであつた。此の様な情勢に於いては、景氣の國際的關聯がドイツと他の諸國との間に容易に見出されたのである。

然るに、現在では、此の關係が逆轉して居る。外國貿易は、上に掲げる表に見られる通り、¹⁾一九二八年の最高二六二億マルクから、一九三六年の九〇億マルクに減退してしまつた。そして、ドイツ工業の輸出割合は一七%に激減した。之に反して、その生産高が一九二八年(一〇〇)に比して、一九三六年に一

1) Dr. Rudolf Eicke, Warum Aussenhandel? Berlin, 1938, S. 9.

○七・八に達して居る事を想ひ浮べるならば、生産の重點が國內市場に著しく移動せる姿を發見するであらう。かくて、今や「國內市場が國民經濟の基礎となるに至つた。」²⁾近年に於ける外國貿易の減退から生じた諸種の困難は、ドイツ國民に對して教えた、外國貿易的錯綜は危険と結びついて居るものである事を。此の認識から、農業に於ける四ヶ年計劃では食糧の自給、工業に於ける四ヶ年計劃では工業原料の自給を對象とする方策が講ぜられた。自由なる國際的交易關係からの轉向は、外國の諸國民經濟の方面に於いても亦、それに對應する輸出の萎縮と關係のあることである。それは、ドイツ經濟の構成變化から出て來る論理的歸結である。乍然、斯かる傾向は、外國貿易統制の形態と方法を變へることを妨げるものではない。

孰れにしても、現在では、世界經濟的關聯の著しい減退が確立せらる可きである。そこで、この事が、景氣の國際的關聯性の中に於けるドイツの地位に對して如何に評價せらる可きであるか。これに對しては、先づ次の事が強調せられなければならない。即ち、「一國の景氣感受性の度合は、決して對外的經濟關係の度合に依存するものではない」⁴⁾と。比較的少ない外國貿易をもつにも拘らず、屢々劇しい恐慌に襲はるゝ國、例へばアメリカ合衆國の如きものもあり、又その反對に世界經濟的利害關係の深い國、例へばイギリスの如きは最近の景氣後退に際して強い抵抗力を表はしたものもある。従つて、此の事からも明かな様に、景氣變動の第一の窮局の原因は、先づ國內の經濟過程に於ける生産力と消費力との不均衡の中に在るのである。斯様にして、若しも緊密なる世界經濟の纏れ合ひが、直ちに一國の景氣反應性を尖鋭ならしめ得ないにしても、尙ほそれでも自國

- 2) Reichs-Kredit-Gesellschaft, Deutschlands Wirtschaftliche Lage. 1938—39. S. 9.
- 3) K. Muhs, op. cit., S. 66.
- 4) Ebenda, S. 66.

經濟の上に生産の重點を移動する事によつて、外國の景氣變動に對する免疫性を増加する事が出來ると主張せられる。

現在ドイツが國際的經濟關係に於いてヨリ多くの自立性を持ち、世界景氣と緊密な關係を保たなくなつて居る事は、その原因が全く獨逸の利害關係にのみ發するものゝ如くに鑑定すべきではない。ペンツリンの研究に従ふと、一九三二年の中頃から各國及び各國群に於いて異なる景氣の發展が現はれて來た。それに對する原因として擧げることの出來るものは、

A 國際的信用組織の破壊

B 本位貨のマニユプレーションの作用

C 輸入數量の統制

である。即ち、信用政策、本位制政策及び貿易政策である。

(B) 本位制統制

國民經濟と國民經濟との間の景氣の纏れ合ひと密接な關係をもつものとして金本位制がある。本位政策は、従つて、貿易政策の一片と考へることも出来る。何となれば、對外經濟を缺く封鎖的商業國に於いては、本位制と云ふものがなく、貨幣造出の政策、即ち信用政策のみが問題となる。目下、統制下のドイツでは、外國爲替政策と貿易政策とが最も密接に相互に結びついて居る。しかし、完全に外國爲替の自由が與へられて居る時

5) Heinz Pentzlin, Binnenmarktbelebung und Welthandel. 1937. S. 58.

1) E. Wagemann, op. cit., S. 208.

には、本位制政策と貿易政策とが常にある一點でその本質が類似して居る。けれども、租税政策及び信用政策が根本的に強い力を持ち然かも自立化して居るならば、本位制政策も貿易政策とともに外國列強の意思と相反するものである事を意味する。一國の爲替強制經濟も亦、それに対応して貿易關係に對する關係を變革する事を意味する。

金本位制の下に於いては、金の流通は自由である。その一國から他國への強い流出入は、割引政策及び貿易政策によつて弱めることが出来るであらう。金本位制が長所をもつて居る事は、云ふまでもない。金本位制に内在せる客觀的保證は、その内國經濟的流通に於いても、また外國爲替的流通に於いても、貨幣價值を恒常ならしめること、及び國家財政的目的のために本位制を誤用する事に對する一種の確實なる保證を提供した。これに對立して大なる短所を金本位制は持つ。即ち、一國の經濟政策及び爲替政策が容易に外國經濟への束縛と云ふ危險なる矛盾に陥ることである。

金本位制からの離脱及びそれと共に遂行せられたドイツの貨幣理念の構成的變動は、所望されて行はれたものではなく、又豫め目論まれた計劃によつて行はれたものでもなく、實は一九三三年の信用恐慌の壓迫の下に行はれたものである。金本位制からの離脱は、次の二つの方向に表れた。即ち、紙幣發行を金準備に結びつける事を除去し、ドイツの貨幣の相場の決定を國際爲替市場から離して國家的管理の下に置いたのである。

第一の措置は、國內經濟的本位制政策の自立化への移行を意味する³⁾。その最も主要なる任務は、支拂手段

3) K. Muhs, op. cit., S. 68.

(信用量をも含む)をば經濟の需要に應じて調節することである。金本位制にあつては、貨幣數量の調節は原則として金準備の自動的調節を基礎とする。金準備規定による『金の制動』Goldbremseは、先づ紙幣の過剰を避ける。此の際の過剰は、經濟社會の貨幣需要に有機的に適應して云はれるものではない。重點は、自國經濟に充分なる・適量なる貨幣を供給する事にあると云ふよりは、寧ろ國際爲替相場及び支拂勘定(殘高)に向けられる事になる。國內經濟の要求に應ずる事は、第二の問題として始めて現はれて來る。金本位制のメカニズムは、たゞ、貨幣用『金』が可成り一樣に汎ゆる國に配分せられて居ると云ふ條件の下に於いてのみ機能し得たのである。斯かる條件は、戰前には與へられて居たが、戰後には最早與へられて居ない。金は著しい偏在を示して居る。

獨逸の本位制の現在の構成は、これを『自立的本位制』⁴⁾ autonome Währungと稱することが出来る。紙幣の金兌換の廢止は、金の作用を束縛してしまつた。金は、最早、金運送點に達しても流出入する事は許されず、その自由なる流出入による各國の價格狀態の差等を除去することが出来ない様にせられた。斯くて、ドイツの本位制は「中央によつて統制せられた本位制」⁵⁾ zentral regulierte Währungとなつた。「その唯一の原理は、貨幣造出をば支拂手段に對する國家の本位政策及び經濟政策的需要に適應させると云ふことである。」⁶⁾ 本位制度が良く機能するか悪く機能するかは、今や一に懸つて中央銀行及びその背後に立つ國家の本位政策にあると云ふ事になる。そして、現在ではヒットラーライヒスバンク總統に國立銀行の監督指導權が附與せられ、ライヒスバンクの銀

4) Ebenda, S. 71.
5) Ebenda, S. 72.
6) Ebenda, S. 72.

行幹部の機能は單なる助言と行政とに限られる事となつて居る。

斯様にヒットラー總統の手に本位政策が掌握せられる様になつた所謂自立的本位制が金本位制に優るものであるか否かは、今こゝで問題としない。それは、唯、國家に、中央銀行に、否アドルフ・ヒットラー總統に貨幣に對する無限の支配權を與へ、それを貨幣政策の準據的なものにまで昇格せしめた事を意味する。従つて、爲替相場をば國際貸借に於ける支拂勘定の短期的動搖から免がれさせる事になる。「外國の景氣變動運動は、それ故に、對外的爲替の價值にも、國內經濟の貨幣價值にも傳播し得ない。」世界景氣の互解に際して、一般的な國際的金本位制の下に於いては、價格が下落すると、輸出後退の途によつて、獨逸の國際貸借に於ける支拂勘定は共に苦惱し、それに因る金の流出は發券銀行の金保證準備を少なくし、紙幣流通及び信用量を壓迫し、最後には價格及び景氣運動をば世界市場のそれと同様のものにする事を餘儀なくせられるであらう。しかし乍ら、ドイツの本位制及び本位政策の自立化は、此の國際的景氣關聯を打ち破り、經濟政策的指導標をば政治的なる經濟指導の掌中に移してしまつたのである。

(C) 信用統制

ドイツの本位制の自立化への變革と相並んで、一九三三年以來ドイツの信用經濟の構成變革もまた行はれた。一九二四年の本位制安定の後、ドイツは絶望的に外國の資本市場に依存する様になつた。工業の再組織及び農業の集約化は、自國の資本形成だけでは最早不十分な程多額の資本充用を必要とした。外國信用の流入は

7) The Economist, No. 4989. p. 83.
8) K. Muhs, op. cit., S. 73.

ドイツの外國負債¹⁾

(單位十億ライヒスマルク)

時 點	總 計	長 期	短 期	
				そ の 中 据 置 信 用
1930, 中頃	26.8	10.8	16.0	—
1930, 12月	25.8	10.8	15.0	—
1931, 7月	23.8	10.7	13.1	6.3
1931, 11月	21.3	10.7	10.6	5.4
1932, 2月	20.6	10.5	10.1	5.0
1932, 9月	19.5	10.2	9.3	4.3
1933, 2月	19.0	10.3	8.7	4.1
1933, 9月	14.8	7.4	7.4	3.0
1934, 2月	13.9	7.2	6.7	2.6
1935, 2月	13.1	6.4	6.7	2.1
1936, 2月	12.4	6.1	6.3	1.7
1937, 2月	10.8	5.4	5.4	1.2
1938, 2月*	10.0	5.0	5.0	0.9

* 推 定

の様にして發生したドイツの外國信用は、第一流の恐慌の源泉池であつた。輕微なる震動が發生して、それが廣く分岐せる全世界を包含せる國際信用網をうち破り、その上に建てられて居た人爲的な好景氣の建造物を崩壊させてしまつた。その際、ドイツの外國負債の半分が短期的性質をもつて居て何時でも拂戻が請求せられ得るものであつたので、それだけドイツに對するその打撃も大であつた。一九二九年の世界恐慌と共に、此の危険は激しいものとなり、一九三一年に大規模に信用

絶える事なく、廣範圍に亘つて銀行・工業・農業及び公共團體の手に移つて行つた。一九二五年から一九三〇年までの短期間に、ドイツは二六〇億ライヒスマルクの外國負債を負ふた。それは、世界の全負債の一五%以上を當る。此の負債過程は、債權國たる列強の貢物政策即ち賠償金支拂の強制の下に行はれたものである。賠償金は、國際貸借に於ける支拂勘定の殘高から支拂はれたのではなく、外國信用から支拂はれたのである。此

1) Ebenda, S. 76.

解除の申出がなされた時、ドイツの信用組織及び經濟組織は癒し難い傷手をうけた。しかし、現在に於けるドイツの地位は、これとは異なる。ドイツの外國負債は、前掲の表に示されて居る様に、それ以來減退を示して居る。今日、殘高は約百億ライヒスマルクある。

一九三三年に發布せられた『トランスファー・モラトリウム』[Transfermoratorium]及び債權諸國と協定せる『据置協定』[Stillhalteabkommen]は、ドイツの本位制及びその經濟をば堪え難き資本回収の催促及び資本損失に對して安定に守るものである。それは、また、利子支拂及び負債償却方法をば國際貸借の支拂勘定に對して合理的な關係に置く様にした。

斯くて、今日、信用の方面に於いても、ドイツは、ドイツ經濟の自立性を再び創り出し、國際資本の移動によつて生ずる國際的信用關係の不安から起り得る攪亂の危險を排除して景氣の國際的關聯性を否定せんとするの立場に立つて居るのである。

*

*

ところで、國際的な商品移動と資本移動との間には聯關が存するものであり、且つそれは維持されなければならぬのである。經驗によると、如何なる資本輸出國にあつても、以前になされた輸出資本によつて設定された利子及び償還分は、終には新なる資本の輸出よりも巨額となる。かゝる時期には、國際的資本關係の錯綜は、債權國に於ける商品輸入の増大を絶對に必要とする。然るに、若し債權國が、それにも拘らず保護關稅に

2) Eicke, Warum Aussenhandel? 1938. S. 76.

3) Dr. Werner Wilmanns, Devisenwirtschaft-Warum und Wie? Berlin. 1938.

よつて自國の貿易バランスを改善せんとするならば、それは汎ゆる世界經濟的關聯を極度の混亂に導かなければならない。關稅の保護は、十中の八九國際的債務の決濟をば純粹なる貨幣で行はしめる。法外に上る金送附の結果として、信用膨脹の危險が債權國を脅かす。これに反して、債務國は本位制度の危急に迫られる。

かくて、債務給付の送附が如何に行はるゝにせよ、それが債權國の保護關稅主義によつて困難ならしめられる限り、貿易の分野に於いても、また資本の分野に於いても、世界經濟の關聯は動搖を來し、狭くなつて行く傾向がある。世界市場のこの損傷は、疑もなく、世界經濟の組織に於ける病患の最惡の結果である。と云ふのは、吾々が過剰生産と名づけて居る現象の根源は實に此處に在るのであるから。⁴⁾

結 言

ワグマン博士は曰ふ、「理想的な極限的な場合に於ける完全なる自由經濟に景氣變動が起り得ないとするならば、それは同じ様に完全なる計劃經濟にも原則上不可能である¹⁾。しかし乍ら、實際に於いて、完全なる自由競争の社會が存在しないと同様に、強權が最高の指揮監督を行ふ様な完全なる計劃經濟も亦永遠に存在し得ないであらう。自由收益經濟（自由經濟）に於いても、經濟要素（賃銀、價格、生産等）は非常に異なる弾力性を有し、従つて完全に競争の自由なる經濟に於いても亦、これらの諸變動は必ずしも調和を保つて居るものではない。これは、直ちに恐慌を惹き起す原因ではないが、恐慌成立の前提である。事實、今日に至るま

4) Wagemann, S. 353—356.

1) Wagemann, Struktur und Rhythmus der Weltwirtschaft. S. 52.

での資本主義は景氣變動を繰り返へしつゝ自ら成長して來た。それが舊恐慌理論の研究對象となつたものである。又、統制欲望經濟（計劃經濟）に於いて、固定せる豫算によつて經濟行爲を拘束する事は、假令それが經濟計算を實際上顧慮せんと欲しても、これを水も洩らさぬ様に完行する事は概して許されないであらう。

統制收益經濟（統制經濟）は、「自由經濟と唯程度上の相異をもつに過ぎないが、原則上それとは全く別な組織形態である。」²⁾此の統制經濟に於いては、自由經濟の最も重要な調整器たる價格が統制せられ、生産と消費とを適合させる自動性が完全に改變せられて居る。しかし、經濟的活動の擔ひ手は原則として個人であり、私有財産及び個人の創意が認められて居る限りに於いて、生産と消費との不一致が起り、國民經濟的均衡の動搖する可能性は、先づ露はに與へられて居るものと見なければならぬ。³⁾

實際の状態を見ると、個々の組織形態が混成して存在して居るのであるが、斯かる混成物は純粹形態に於ける景氣態様の單純なる組合せをあらはすものではない。寧ろ吾々は斯かる混成物が特に爆發性をもつ事、及び特殊なる恐慌の危険を含んで居る事を知るであらう。⁴⁾

それ故に、統制經濟の内部に於いても、吾々は景氣の變動を見ることが出来る。現に、ドイツに於いては「國家景氣」と云はれる好景氣が支配して居る。若しも、統制經濟それ自體が、全く景氣現象と無關係なものであるならば、それと國際的景氣關聯との問題が提起せられても、それは何等の意義もない事なのである。だが、統制經濟の中に於いても、變化せる衣を纏つて景氣現象は依然として存在するのである。

2) Ebenda, S. 50.

3) K. Muhs, op. cit., S. 54.

4) Wagemann, op. cit., S. 54.

斯様にして、統制經濟と國際的景氣關聯との問題がとりあげられる事も可能となる。

新しく構成せられたドイツの統制經濟の秩序の中に於いて、價格形成は最早需要供給の交互作用に直接關聯をもつものではない。賃銀の決定は、階級闘争に依存するものでもなく、又労働市場の需給關係に委されて居るものでもない。それが労働管理官 *Trenthändler der Arbeit* に一任されて居るのは、價格形成が價格形成委員 *Preis-Kommissar* の手によるのと軌を一にする。景氣の動搖に對して決定的な力をもつ投資は、最早價格の變動とか個々の企業家の自由裁量とかに従ふものではない。それは、今や國家的な投資統制に支配せられ、過剰投資の危險や資本の誤用が制限せられ得る様になつた。農業統制は最も徹底的に行はれて、新しい秩序を展開して居る。また、對外經濟的關係は、全く中央的統制に委ねられ、世界市場の側からの攪亂から或る程度まで遮斷せられて居る。反對に、ドイツが他の諸國の景氣に對して支配的な力を振ふ餘地も縮少されてしまつた。本位制度は、國際的資本位制と云ふ自動的なものから離脱して、世界市場價格・他國の爲替相場及び金準備の變動とは無關係な自立的本位制を創り出し、それを國家權力によつて自國の國民經濟の需要に彈力的に適應させる様にする事を餘儀なくせられた。資本市場は、國際資本移動の外部に立ち、専ら國家の需要のために奉仕するものと化してしまつた。その性質上過去に於いて多數の恐慌の助産婦の役目をつとめた信用制度は、かくて、國際的な縫れ合ひから解放せられ、ヒットラー總統の監視及び指導に守られた新秩序の中に於いてその機能を果しつゝある。

既に第一章で述べた様に、景氣の國際的傳播は、經濟的傳播の途及び社會心理的傳播の途を辿るのである。吾々は今そこに建造せられた巨大なる交易經濟と云ふ建築物を想定する。さうすると、「ドイツの經濟がその新なる構成を通じて、その昔の交易經濟的建物から汎ゆる犬齒を取り除いてしまつた」⁵⁾「實況をあり／＼と眼前に見せつけられた様な感じがする。従つて、そこには第二の途たる心理的傳播の展開される基礎が欠如して居る事になる。

斯くの如く考へ得るのは、吾々がドイツで現在行はれて居る統制的措置が何等の妨げなしに實踐せられつゝあるとの想定の下に於いてである。しかし、現實の姿はこれとはいさゝか異なる。「闇相場」と云ふ様なものが絶對にないとは云へない。統制の綱の目をくゞつて資本の國境越も敢行されて居るかも知れない。それにも拘らず、統制經濟下のドイツは、國際的な景氣關聯に於いて比較的無關係な状態に置かれて居る。これは、ドイツのもつ國際的景氣關聯が著しく弛緩して居る事を指稱するものであつて、決してそれが皆無となつた事を意味する譯ではない。人は、これをアウタルキー化 (Autarkisierung) と呼ぶ。アウタルキー (Autarkie) は、元來、ギリシヤ語で「自ら満足すること」「満ち足れること」を意味するものであるが、今日吾々が、これを使用する時には如何なる國際關係からも離脱した國民經濟を意味する必要はない。その様な事は、恐らく決して到達されないであらう。具體的關係に於いては、ゾムバルトの云ふが如く⁶⁾、諸外國との關係に絶對的には依存して居ない様な國民經濟をアウタルキーと呼んで然る可きであらう。斯かる意味に於けるアウタルキーは、對外的關

5) K. Muhs, Deutschland und die nächste Wirtschaftskrise. 1938. S. 79.

6) W. Sombart, Deutscher Sozialismus. S. 287.

係に於いては『封鎖的發展主義』を採るものである。輸入は出来るだけ制限し防遏するが、輸出増進のためには大量となつて居る各國の現状を想ひ併せるならば、その間の消息を容易に理解し得るであらう。従つて、實際的範圍にまで及ぶ商品及び資本の移動が全く排除せられて居る譯ではない。例へば商品に就いて見ると、國內では全般的な價格統制が行はれて居るけれども、外國取引商品はその例外とされて居る。それは、外國市場の價格關係とドイツが繋がりを持つ事をあらはす。だが、それは自由奔放な壓力を國內の價格組織に對して加へることの出来るものではなく、しかも兩者の關係はドイツに於いては秩序付けられて居るのである。従つて、諸外國の景氣の影響を蒙ることは僅少であり、その景氣は独自のカーヴを描いて發展して居る。斯様な状態であるから、若しも吾々が個々の強國に於ける景氣の運動を研究するならば、吾々はそれらの差異の方が近似よりも大である事を見出す。殆んど到る處に於いて、政府の干渉は所謂「自然的」景氣變動運動と多少とも不可分に纏れ合つて居る。政治が經濟の指導標をその掌中に握り、經濟はその自主性を失ひ單に政治の行はれる場となつて居る。

(一九三九・五・三〇)

正誤 三一頁四行目 Treuhändler は Treuhänder の誤りにつき茲に訂正す。